

提出日：平成 21年2月27日

情報教育研究推進委員会実践発表会・参加報告書

陳 怡如（東北大学大学院情報科学研究科 博士課程前期 2年）

調査・場所
平成 20 年度 情報教育研究推進委員会「実践発表会」 (場所：仙台市教育センター)
日程
2009 年 2 月 10 日 (火) 14:00-17:00
参加者
関本英太郎 (情報科学研究科 教授) ・篠澤和久 (情報科学研究科 准教授) ・韓放 (情報科学研究科博士課程後期 1 年) ・呉瓊 (情報科学研究科博士課程前期 1 年) ・陳怡如 (情報科学研究科博士課程前期 2 年)
目的
小中学校での情報教育について、情報教育研究推進委員会「ICT 活用部会」「校務情報化推進部会」「情報モラル教育部会」それぞれの実践から現状・成果・課題を把握する。本報告書では、主に「情報モラル教育部会」部分のまとめを提示する。
内容および成果
・情報モラル教育部会 情報モラル教育部会は、情報モラル指導を社会及び保護者の喫緊の課題と位置づけ、メディアの特性を自主的に判断できる生徒の育成及びより良いコミュニケーション方法の習得を目的に『情報モラル指導力育成モデル』を提案し、「実践授業」「外部連携」「教員研修」の三つの部分から情報モラル教育を推進している。 - 実践授業 学校内での実践授業はコミュニケーション及び公共性にポイントを置き、学年別に行われている。 小学校低学年では、コミュニケーション (伝える) 時に相手のことを考えて行動することを学ぶ内容が盛り込まれている。高学年の授業では、メディアの特性を意識した情報発信や個人情報コントロールなど、メディアツールの活用法も考える要素に組み込まれている。中学校では、携帯電話の利用ルールなど、情報化社会の一員としての責任を考える授業が取り入れられている。 - 外部連携 学校内での実践授業の他、大学の先生や外部機関と提携し、個人情報の管理・メディアツールの活用など情報化社会には欠かせない知識を様々な視点から授業に取り入れ、時にはゲームなどを取り入れるなど体験を含む指導方法で生徒が興味を示す方法で情報モラル指導を実

施している。

- 教員研修

また、継続的に情報モラル指導について教員研修を開催することで指導力の向上を図っている。研修内容の一例は、ステップを踏んで設計されたもので、現状や課題を把握することで「問題を認識」し、身近な問題を提示することで「情報教育の必要性の意識向上」につなげていく部分から始まる。そしてさらに具体的な実践として教員自身が身につけるべき能力や日常でのモラル指導、問題の対応法などを研修にて習得できるよう努めている。

学校で情報モラル指導に取り組む際、次の4つのステップに分けて展開することができる。

1. 日常における適切なメディア活用経験の把握
 2. からさらにトピックごとに取り上げ（著作権問題、情報の信憑性など）、カリキュラムに位置づける
 3. 生徒の利用実態の把握：危険性を一斉指導
 4. 緊急性の高いもの、例えばトラブル発生時やその兆候がうかがわれた時点で即指導
- しかし、とくに3と4の部分に関しては、トラブルの対処法などに関して事前にどこまで展開できるのか、指導できるのかが問題として残る。

情報モラル教育をより充実させるためには、学校の実態に応じた授業・研修内容設計が求められる。また、学校独自の取り組みの具現化の一環として、実践授業を行うほか、系統的に指導体制を確立することも有効と考えられる。一方、学校と家庭・地域が提携することも重要であり、生徒向けの情報モラル教育に取り組むだけでなく、大人も常に新たなコミュニケーション文化の習得を心がけ、継続的・連携的に行うことが理想的である。

情報モラル教育に関するさらに詳しい情報は、こちらをご参照ください：

<http://www.sendai-c.ed.jp/moral/molallink.html>

参考資料：

- 平成20年度 情報教育研究推進委員会「実践発表会」発表補助資料